

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	里山創成室	職	室長	氏名	渡邊 泰輔
評価者	組織	里山創成室	職	室長	氏名	奥本 勉

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	里山里海における新たな価値の創造	里山創成ファンド採択件数(累計)	件	27 (H24)	12 (H23)	30 (H24)	A
施策2	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり	いしかわ版里山づくりISO認証団体数	団体	150 (H24)	130 (H23)	169 (H24)	A
施策3	生物多様性の恵みに対する理解の浸透	グリーンウェイブ参加団体数	団体	30 (H24)	30 (H23)	30 (H24)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
					(年度)	(年度)							
施策1	課題1	里山里海における新たな価値の創造	里山創成ファンド採択件数(累計)	件	27 (H24)	12 (H23)	30 (H24)	1 里山創成ファンド事業資金貸付金	企業、NPO等	1,000,000	1,000,000	A	継続
								2 世界農業遺産活用推進・魅力発信事業	地域、県民、首都圏、佐渡市等	13,000	16,799	A	継続
								3 先駆的里山保全地区創出支援事業	地域	4,184	3,115	A	縮小
施策2	課題2	多様な主体の参画による里山里海づくり	いしかわ版里山づくりISO認証団体数	団体	150 (H24)	130 (H23)	169 (H24)	1 いしかわ版里山づくりISO推進事業	企業、NPO、学校等	3,840	3,657	A	継続
								2 里山の森づくりボランティア推進事業	県民	3,700	3,456	A	継続
								3 新しい里山創造人材育成事業	県民	2,800	2,391	A	休止
								4 里山のパートナーづくり推進事業	企業、NPO、県民等	6,000	5,406	A	継続
施策3	課題3	生物多様性の恵みに対する理解の浸透	グリーンウェイブ参加団体数	団体	30 (H24)	30 (H23)	30 (H24)	1 子ども里山学習プログラム推進事業	県民	1,600	1,600	A	見直し
								2 いしかわグリーンウェイブ2012開催事業	県民	1,000	800	A	継続
								3 いしかわ里山サウンドウェイブ事業費	県民	2,600	3,586	A	見直し

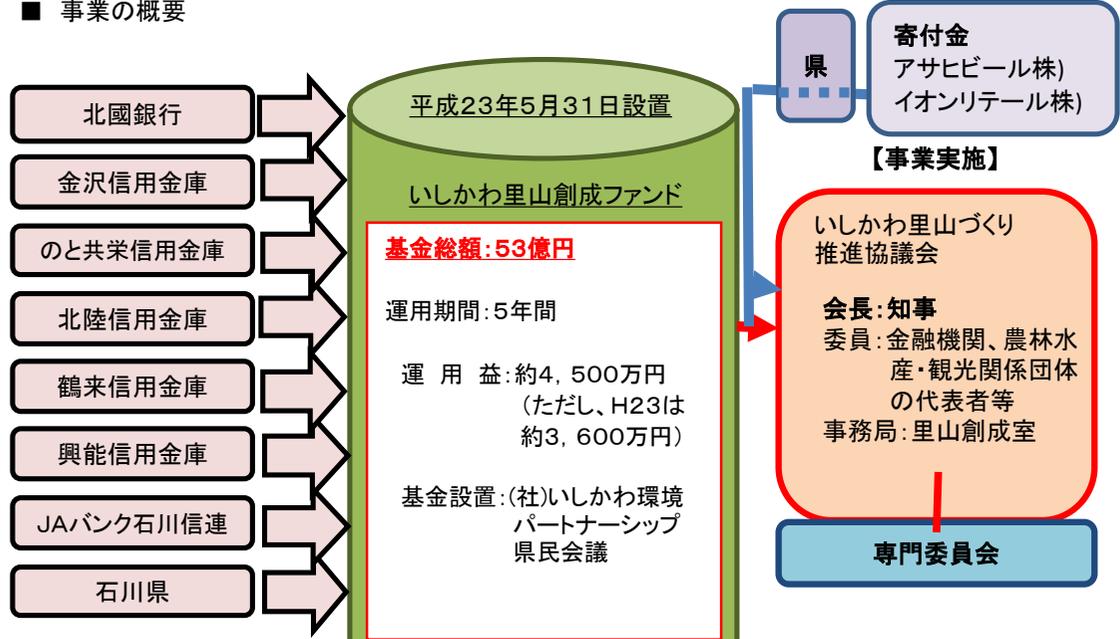
事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわり山創成ファンド事業資金貸付金	事業開始年度	H23	事業終了予定年度	H27	
		根拠法令		作成者	組織	環境部里山創成室
		計画等		職・氏名	専門員 奥野 充一	
電話番号 076 - 225 - 1478 内線 4272						

■ 事業の背景・目的

県と地元金融機関で基金を造成し、その運用益と企業からの寄附金により、里山里海地域の振興、多様な主体による保全活動の支援、里山の地域資源を活用した生業創出などの支援、里山景観の保全・創出、里山里海保全の重要性に関する普及啓発等を行うことで、元気な里山里海地域の創成を図る。

■ 事業の概要



事業内容

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 里山里海の資源を活用した生業の創出 2. 里山里海地域の振興 <ol style="list-style-type: none"> (1) 里山里海地域を元気にするイベント支援 (2) 里山の資源循環モデル構築による地域おこし (3) 里山景観の創造 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 多様な主体の参画による里山保全活動の推進 4. 里山里海の恵みの大切さについての普及啓発 |
|---|--|

施策・課題の状況						
施策	自然と人が共生できる社会づくり				評価	A
課題	里山・里海の利用・保全					
指標	里山創成ファンド採択件数(累計)				単位	件
目標値	現状値					
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
27				12	30	

事業費						
	(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				1,000,000	1,000,000
	決算				1,000,000	1,000,000
一般財源	予算				0	0
	決算				0	0
事業費累計					1,000,000	2,000,000

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A H24年度の「いしかわり山創成ファンド」の公募事業において、51件もの応募があり、18件を採択した。平成23年度の採択事業者と併せ現在、30事業者の活動を支援している。 採択を契機として、里山資源を活用した新たな商品の開発、耕作放棄地の解消につながっており、本事業は里山づくりの推進に有効である。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 里山里海の資源を活用した新しい商品やサービスを提供する「生業の創出」をはじめ、多様な主体の参画による里山保全活動の推進など、里山づくりに取り組む地域の活動を活発にしていきたいため、今後も継続が必要である。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 世界農業遺産活用推進・魅力発信事業	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		作 組 織 環境部里山創成室 成 職・氏名 専門員 瀬川 徳子 者 電話番号 076 - 225 - 1478 内線 4258	
	根拠法令	ふるさと石川の環境を守り育てる条例				
	・計画等	石川県生物多様性戦略ビジョン				

■ 事業の背景・目的
 羽咋市以北の4市4町が、県などの推薦を受け「能登の里山里海」をテーマに、国連食糧農業機関 (FAO)の「世界農業遺産」の認定申請を行い、6月11日に認定を受けた。これを受け、県と4市4町、関係団体で設立した「世界農業遺産活用実行委員会」が中心となり、先進国として初めて認定された「世界農業遺産」を積極的に国内外に情報発信することで、その価値の周知と認識の向上を図る。加えて、認定をてこに「交流人口の拡大」や「生業の維持・創出」に向けた取組等を積極的に展開し、能登の里山里海を元気にすることで、生物多様性の維持と能登地域の振興につなげる。
 平成24年度は、平成23年度の検討を踏まえ、能登の里山里海の価値を更に高める保全・活用を推進するとともに、世界農業遺産の意義と価値を県内外へ周知・啓発・発信を行うため、新たに同時期に認定された佐渡との連携した事業の実施や、スタディツアーの実施等を行う。

■ 事業の概要
【生業の維持・創出に向けた里山保全・利活用の取組】
 特色ある農林水産物の付加価値の向上
 農業遺産の物語を付して能登の特色ある農産物を首都圏大手百貨店等へ発信
【「能登の里山里海」の価値の再認識と共有に向けた取組】
 1 地域住民の理解促進
 (1) 認知度向上のためのPR
 ① 広報素材の作成 パンフレット(詳細版)・ポスターの制作
 ② ポータルサイトの充実 韓国語、中国語ページの作成
 ③ 構成資産調査紹介冊子の印刷
 H23年度実施の構成資産調査をとりまとめた紹介冊子の作成(日英)
 (2) 地域住民の理解促進
 ① 地域住民による地域資源(生活様式、風習、伝統的技術等)の再発見
 里山里海を保全・活用してきた人々「里山里海人」にスポットを当て、その活動内容、知恵・技術などを聞き取り広く周知する。
 ② シンポジウムの開催
 世界農業遺産の理解の向上や未来へ引き継ぐ意欲の醸成を図るシンポジウムの開催
 2 県内外への魅力発信・誘客促進
 (1) 首都圏での情報発信
 情報誌での情報発信
 (2) 佐渡との連携・交流の推進
 能登・佐渡里山交流・連携の推進
 チャーター船を利用した子どもの交流や首都圏でのPRイベントの実施
 (3) 里山保全に貢献するツーリズムの推進
 世界農業遺産スタディツアーの実施
 企業・旅行会社とタイアップした世界農業遺産の保全に貢献するスタディツアーの実施
 エージェント用の素材集の作成

■ 事業の実施主体
 世界農業遺産活用実行委員会 (県1/2、市町1/2)

施策・課題の状況						
施策	里山里海における新たな価値の創造				評価	A
課題	世界農業遺産の活用による里山里海の利用保全の推進					
	指標	里山創成ファンド採択件数(累計)			単位	件
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	27				12	30
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				9,500	13,000
	決算				9,500	16,799
一般財源	予算				9,500	13,000
	決算				9,500	16,799
事業費累計					9,500	26,299
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		A	地域内で「世界農業遺産」の認知度が高まったことで、新たな取組への意欲醸成につながり、里山創成ファンドへの申請をはじめ、能登棚田米のブランド化や、能登全域で環境と調和した農業に取り組む「能登米」の動き等、里山里海を活用した能登地域の振興に寄与した。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	平成25年度は、新幹線開業を見据えて、さらに県内外への魅力発信及び誘客を促進するため、首都圏での情報発信を強化していくとともに、能登の里山里海の価値の向上と保全の仕組みづくりを行っていく。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	先駆的里山保全地区創出支援事業	事業開始年度	H23	事業終了予定年度		作成者	組 織	環境部里山創成室	
		根拠法令・計画等	石川県生物多様性戦略ビジョン				職・氏名	主事 橋本 竹史	
							電話番号	076 - 225 - 1469 内線 4269	

■ 事業の背景・目的
 平成21年度から進めてきた先駆的里山保全事業により、地域住民が意欲的に取り組む里山保全活動を支援してきた。その結果、地域差はあるものの、いずれの地域においても里山保全活動に進化がみられたところである。
 このため、里山里海の利用保全の取組に意欲があり、地域資源の活用や魅力の増強により活性化を図ろうとする地域に対して、情報提供・セミナーの開催や自立的な活動に向けた支援を県と地元市町が協力して行い、県内における地域主体の里山里海保全活動の裾野拡大を図る。
 さらに、里山里海の資源を活用した交流人口の拡大に向けた取り組みを行う地域については、里山里海を体験して学ぶ場を創造し、地域活性化を図る交流モデル地域として支援を行う。

■ 内容

(1) **意欲ある地区の掘り起こし**
 既に先進的に里山づくりに取り組んでいる「先駆的里山保全地区」などの情報提供やセミナーなどにより、里山づくりに意欲ある地域の掘り起こしを行う。

(2) **自立的な里山づくりに対する助成**
 里山づくりに意欲がある地域に対し、住民による自立的な里山づくりに向けた取り組みを県と地元市町が協力して支援する。
 ●対象:里山保全に意欲がある地域(新規地域は公募により選定)
 ●補助金:300千円以内(地元市町も同額を助成)
 ●事業期間:3年以内
 ●活動内容:里山里海の利用保全に向けた地域の課題の抽出と活動計画検討、住民の理解向上に向けた研修 など

(3) **交流人口拡大モデル地域への支援**
 里山里海的生活そのものや食、伝統文化、自然など、それぞれの地域の特性を活かした交流モデル地域として支援する。企業や都市部住民が持つ様々な体験、学習ニーズに応えるとともに、多様な交流形態を示すことで、周辺地域へ波及させる。
 ●実施地域:里山を活用した交流人口拡大に意欲がある地域 2カ所
 ●事業期間:1年
 ●実施内容:交流人口拡大に向けた地域資源の活用方策の検討、マップの作成 等(地域づくり活動団体等に委託)

施策・課題の状況						
施策	里山里海における新たな価値の創造				評価	A
課題	里山里海における新たな価値の創造					
	指標	里山創成ファンド採択件数(累計)			単位	件
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	27				12	
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				4,700	4,184
	決算				3,890	3,115
一般財源	予算				4,700	4,184
	決算				3,890	3,115
事業費累計					3,890	7,005
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	里山づくりに関して未活動だった2地区及び活動が確立の途上にあつた1地区に対して支援を行った結果、地域資源を活用した試作品の販売や、耕作放棄地の整備・活用など、さらなる里山の利用保全につながった。 また、交流人口拡大モデル地域として2地区に支援を行った結果、交流推進プランのとりまとめや、広報物(マップ、チラシなど)の作成が進められ、受け入れ体制の整備が進められた。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	縮小	新たな未活動地区に対して支援するほか、引き続き、活動が確立の途上にある3地区への支援を継続する。 一方、交流人口拡大モデル地域については、H24までに6地区でモデルづくりが進んだことから、本事業における支援を終了する。当該6地区に対しては、更なる充実に向けて、H25以降も既存事業等を活用して支援する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ版里山づくりISO推進事業	事業開始年度	H23	事業終了予定年度	H27	作 組 織	里山創成室
		根拠法令 ・計画等	石川県生物多様性戦略ビジョン			成 職・氏名	主任主事 山本 善述
						者 電話番号	076 - 225 - 1469 内線 4274

事業の背景・目的
 本県の里山里海は多くの生きものにとっての貴重な生息空間になっており、食料や伝統文化など、様々な恵みを育んでいる。しかし、都市化の進展や生活様式の変化などが相まって、里山里海の荒廃が問題となっており、県では、H23年3月に里山里海の利用保全を中心とした「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定したところである。
 戦略ビジョンの重点戦略に掲げる多様な主体の参画による里山里海づくりを実現するため、H23年2月に創設した「いしかわ版里山づくりISO」制度では、企業・NPO団体・学校等が取り組む里山里海の利用保全の取り組みを認証し、活動を支援することにより、多様な主体の里山づくりへの参画を促進する。

事業の概要

- 1 事業の内容
 - ・いしかわ版里山づくりISOの認証
 - ・里山づくりISO認証団体の活動情報の収集と発信
 - ・里山活動団体のネットワーク化推進
- 2 認証の対象
 企業、NPO団体、学校、地域団体等の組織体
- 3 里山づくりISOの対象活動
 - (1) 里山の田んぼ・畑づくり支援活動 → 耕作放棄地の利活用 等
 - (2) 里山の森づくり支援活動 → 森の小道づくりやキノコの山づくり活動 等
 - (3) 里山の生きものを守り育てる活動 → 侵略的な外来生物の駆除 等
 - (4) 里海づくり支援活動 → きれいな海岸や海中づくり 等
 - (5) 里山の集落コミュニティの支援活動等 → 伝統的な祭の復活や里山景観の維持活動 等
 - (6) その他里山づくりに資する活動 → 本業を通じた里山里海の利用保全
- 4 里山づくりフォーラムの開催
 里山づくりISO認証団体の活動を広く発信することでさらなる参加者を拡大するとともに、団体間のネットワーク化の推進を図るためのフォーラムを開催
- 5 事業実施期間(予定)
 H23～27年度(5カ年)

施策・課題の状況							
施策	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり					評価	A
課題	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり						
	指標	いしかわ版里山づくりISO認証数				単位	団体
	目標値	現状値					
	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	150	130	169				
事業費							
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
事業費	予算	900	2,840	3,840			
	決算	900	2,188	3,657			
一般	予算	900	2,840	3,840			
	決算	900	2,188	3,657			
事業費累計		900	3,088	6,745			
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		A	H24年8月に17団体、H25年2月に22団体の認証を行い、H23年度に認定した130団体と合わせて、H25.3現在、169の企業・団体・学校などの取組を認証し、その活動の支援等を行っている。 認証を契機として、新たな活動を行う団体や活動をより活発に行う団体もあり、本事業は里山づくりの推進に有効である。				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多様な主体の参画をさらに促進するため、新たな団体を認証し、里山づくりに呼び込むとともに、すでに認証している団体への支援や団体間のネットワークづくりを行い、県内の里山づくり活動をより活発にしていきたいため、今後も継続が必要である。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

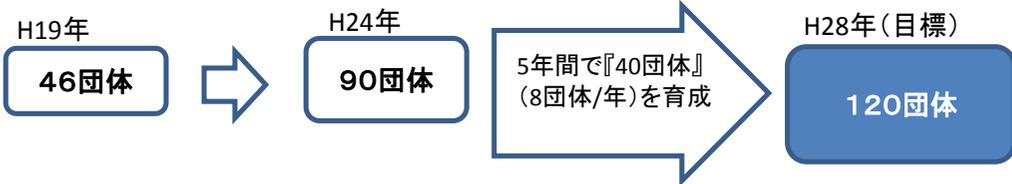
事務事業名 里山の森づくりボランティア推進事業	事業開始年度	H19	事業終了予定年度	H28	作 組 織 里山創成室
	根拠法令・計画等	いしかわ森林環境基金条例			成 職・氏名 技師 山崎 美佳
					者 電話番号 076 - 225 - 1469 内線 4274

<事業の背景・目的>
 森林は水源のかん養や県土の保全等、さまざまな公的機能を持っている。すべての県民がこの森林からの恩恵を受けているとの認識に立ち、森林を県民共有の財産として守り育て、次の世代に健全な姿で引き継いでいくため、平成19年度から「いしかわ森林環境税」が導入された。この財源を基に「いしかわ森林環境基金事業」をスタートした。
 「いしかわ森林環境基金事業」は当初の事業期間5年を経過することから、平成23年度に事業成果の評価と見直しを行い、5年間の取り組みについて一定の評価はできるものの、放置竹林の拡大による里山林の荒廃など、平成24年度から平成28年度までの5年間事業を継続することが決定した。
 里山創成室では、NPOや地域住民で組織する団体などによる、自主的な里山の保全再生活動を支援し、県民参加による里山づくりを進める。

<成果と今後の目標>
 いしかわり山づくりISO制度や2011年国際森林年等により、多様な主体の参画による森づくりの機運が高まっており、この機を逃さず森づくり団体の育成をさらに進める。

◇森づくりボランティアを行う団体数 (単位:団体)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
補助団体実績	14	17	14	16	13	19	-	-	-	-
団体数(現状)	46	58	59	76	82	90				
団体数(目標)						90	98	106	114	120



<事業の概要>
 NPO団体等が自主的に行う里山の保全再生・利用活動等を支援するために、補助金を交付する。

- 事業主体: NPO、ボランティア団体、地域住民が組織する団体等
 補助率: 10/10 (500千円限度) (1箇所平均25万円、年間18団体程度)
 内 容 ① 里山の保全再生・利用活動
 ② 里山に親しむための活動
 ③ 上記の活動に必要な講習会、フォーラム等の開催

施策・課題の状況					
施策	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり			評価	A
課題	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり				
指標	いしかわ版里山づくりISO認証数			単位	団体
目標値	現状値				
	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	150	130	169		

事業費					
(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	4,000	3,700	3,700	3,700	3,700
予算	3,780	3,624	3,651	3,456	
決算					
一般					
財源					
事業費累計	10,034	13,658	17,309	20,765	24,465

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成24年度は19団体に対して補助を行い(平成19年度より6年間で延べ93団体)、補助していない団体も含めて合計90団体が活動しており、平成24年度までに活動団体数を90団体とする目標を達成し、県民による身近な里山保全活動や、県民の里山に親しむ活動の推進に寄与した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後の取り組みのか)	継続	県が森づくりボランティア団体へ交付する補助金により、団体が自主的に取り組む里山保全活動の一助となっており、平成24年度は新たに8団体が里山の森づくりに取り組むなど、県民参加による里山づくりの広がりが見られていることから、今後も継続して支援していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	新しい里山創造人材育成事業	事業開始年度	H22	事業終了予定年度	H25	作 組 織	里山創成室
		根拠法令 ・計画等	石川県生物多样性戦略ビジョン			成 職・氏名	技師 山崎 美佳
						者 電話番号	076 - 225 - 1469 内線 4274

<事業の背景・目的>
 本県の里山は、人の暮らしや産業と自然環境との関わりの中で形作られているが、奥能登地域を中心に過疎・高齢化が顕著に進み、里山の生物多样性がおびやかされている。これに対応するには、既にある地域資源に新たな価値を見出し、持続可能な形で里山を利用することが必要である。また、地元だけでなく多様な主体が協働して、里山保全活動に参画することが重要である。
 このため、里山地域と多様な主体を結び、協働活動を進める里山づくりのプランニング手法、資金計画、ワークショップの運営などのスキルアップを目的としたセミナーを開催することにより「地域の課題・問題に実践的に対応できる『里山創造人材』の育成」を図る。

<事業の概要>

1 里山創造人材の役割
 (1) 里山里海の住民と多様な主体(企業、NPO、大学等)を結びつけるコーディネーター
 (2) 地元住民と多様な主体が協働して取り組む里山里海づくりの計画作成及び、実践
 (3) 里山里海地域のコミュニティービジネス、地域づくりプランに対するアドバイス

2 育成対象者
 (1) 自然環境や生物多样性を活用して里山づくりを行う人(地域振興リーダー、環境教育関係者等)
 (2) 農林漁業者で生物多样性に配慮した生産活動を行う人(農林漁業者等)□
 (3) 里山里海の地域資源を活用したエコツーリズムや農家民宿等を行う人、また志す人

3 平成24年度事業内容
 (1) 人材育成セミナー
 地域との協働の手法、地域資源の発見と目標の設定、計画づくり、ワークショップの運営等のセミナーを開催し、受講生が取り組む里山地域と多様な主体の参画による里山里海づくりの計画、プログラム作成を行う。また、県外の里山づくりコーディネーターによる事例紹介と、受講生の取り組みに直接アドバイスをいただく。
 (2) フォローアップワークショップ
 平成23年度の「里山創造人材育成セミナー」受講生が作成したプロジェクトを実践し、相互に事業の評価やその中で発生した課題や変更事項等について、アドバイス等を行うワークショップの開催。

4 事業実施期間 平成22年～25年度(4カ年)

5 育成目的人数 30人(H23～25 10人/年)

6 予算額 2,800千円
 (一般財源 800千円、特定財源 2,000千円:環境保全助成金(モーターボート競走助成金))

施策・課題の状況					
施策	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり	評価	A		
課題	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり				
	指標	いしかわ版里山づくりISO認証数		単位	団体
	目標値	現状値			
	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	150	130	169		
事業費					
	(単位:千円)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	予算	1,000	2,800	2,800	
	決算	409	2,460	2,391	
一般財源	予算	1,000	800	800	
	決算	409	460	391	
事業費累計		409	2,869	5,260	
評価					
項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	里山づくりコーディネーター創成塾(18名受講)では、各地域の地域資源を活用した里山づくりについて発表を行うなど、互いに学びあう実践的なセミナーを実施し、里山地域と多様な主体をコーディネーターし活動をサポートできる人材を育成した。 その中から、こまつ滝ヶ原自然学校と有限会社コラソンが廃棄自転車を活用した里山サイクリングプログラムを立ち上げたり、民間企業が研修として里山保全活動を実施するなど、里山地域と多様な主体の連携事例が見られており、本事業は里山里海づくりの基礎として有効であった。			
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	休 止	当初目標としていた「里山づくりコーディネーター30名の育成」を達成したため、人材育成事業は休止し、育成した人材を活用し、企業等が実施する里山づくりのコーディネーターや、里山での利用保全の実践的な活動を進める。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	里山のパートナーづくり推進事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	H25	作 組 織 里山創成室
		根拠法令 ・計画等	石川県生物多様性戦略ビジョン			
						者 電話番号 076 - 225 - 1469 内線 4274

<事業の背景・目的>
 本県の里山は、人の暮らしや産業と自然環境との関わりの中で形作られているが、奥能登地域を中心に過疎・高齢化が顕著に進み、里山の生物多様性がおびやかされている。これに対応するには、既にある地域資源に新たな価値を見出し、持続可能な形で里山を利用することが必要である。また、地元だけでなく多様な主体が協働して、里山保全活動に参画することが重要である。また、「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことを契機に里山づくりへの関心を高めることが求められている。
 企業や都市の住民など多様な主体を里山づくりのパートナーとして里山づくりに参画促進させ、企業等と里山地域の協働による地域活性化を推進することを目的とする。

<事業の概要>

1 企業CSR活動等による里山づくりへの連携促進

(1) 企業等を対象とした「里山づくり参画促進セミナー」の開催 (1回)
 → 73名参加、うち企業41人33社

(2) 里山地域を対象とした「企業等との協働活動促進セミナー」の開催 (5回)
 → 延べ339人参加

(3) 企業等と里山地域との情報交換交流会の開催(2回)
 → 延べ285人参加、うち企業51人43社

(4) インターネットやメールを活用した里山やボランティア情報の提供

2 都市住民等の里山地域でのボランティア活動の促進

(1) いしかわ農村ボランティア窓口の運営

- ・「農村役立ち隊」「受け入れ隊」の隊員募集・登録及びマッチング
 → 「農村役立ち隊」: 個人194名、7団体、14企業 「受け入れ隊」: 22地区
- ・ 隊員募集に係る広告・宣伝

(2) 農村ボランティア活動強化支援

- ・ 農村ボランティア活動の実施
 → 19地区・37回 延べ660人参加(体験版含む)
- ・ 体験版農村ボランティア活動の実施
 → 7地区・7回
- ・ 隊員相互の交流促進・意識調査、活動強化
- ・ NPO等との連携体制づくり

3 予算額 6,000千円
 企業CSR：3,000千円【一般財源】
 農村ボランティア：3,000千円【石川県ふるさと・水と土保全基金】

施策・課題の状況						
施策	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり				評価	A
課題	多様な主体の参画による新しい里山里海づくり					
	指標	いしかわ版里山づくりISO認証数			単位	団体
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	180				130	169
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算					6,000
	決算					5,406
一般財源	予算					3,000
	決算					3,000
事業費累計						5,406
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	企業及び里山地域向けのセミナーや交流会により、協働に関する理解の促進や意識醸成、取組の裾野拡大を図り、関心のある企業や集落から積極的な参加があった。 また、農村ボランティア活動では、企業や都市住民のボランティア等が草刈りや収穫などの協働作業を実施し、交流することにより、農地や水路等地域資源の保全が図られ、集落の活性化に大いに効果があった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	企業等と里山地域のより良い関係を築くため、引き続き、セミナーや交流会といった、企業等と里山地域との協働活動の実現に向けた取組を進める。 また、里山地域でのボランティア活動の一層の推進により、農地をはじめとした地域資源の維持・管理等を図るとともに、受け入れ集落とボランティアの自立的な活動に向けた仕組みづくりに取組む。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子ども里山学習プログラム推進事業	事業開始年度	H23	事業終了予定年度	H24	作 組 織 環境部里山創成室
	根拠法令 ・計画等	石川県生物多様性戦略ビジョン			成 職・氏名 技師 山崎 美佳
					者 電話番号 076 - 225 - 1469 内線 4274

事業の背景・目的
 2010年10月に愛知県で開催されたCOP10では、次期戦略計画である「愛知目標」が採択され、「生物多様性の損失を止めるために、実効的かつ緊急の行動を起こす」ことが2020年目標として定められるなど、今後も生物多様性の保全に関する取り組みはますます重要になっている。
 本県でも県生物多様性戦略ビジョンの重点戦略の1つである「生物多様性への理解の浸透」、「人材育成」を推進していくうえで、次世代を担う若者に対する生物多様性、里山里海に関する理解の向上を図る。

事業の概要
 1 事業の内容
 大学生(※1)を中心として設置した里山学習プログラム研究会「里山発見隊(以下「発見隊」という。)」において、県施設(※2)を活用して里山の恵みや生物多様性等を学ぶ子ども向けの新しい「里山学習プログラム」を作成し、そのプログラムを活用して、子ども達が里山里海の恵みや生物多様性などについて学ぶ機会を作る。
 また、発見隊の活動を通して、次世代を担う発見隊の構成員自らも里山里海の利用保全や生物多様性の保全、環境問題の課題等を学び、理解を深め、構成員が里山保全活動に取り組む等さらなる次の行動につなげていくきっかけとする。

(※1) 大学生: 金沢大学、金沢星稜大学、石川県立大学、金沢工業大学

(※2) 県施設: 夕日寺健民自然園、いしかわ動物園

(※3) 里山学習プログラム
 実施時間: 90分/回
 プログラム数: 各施設3プログラム作成
 内容: 3つのプログラムを通して、施設の季節ごとの生物多様性などを学ぶことができるもの

2 スケジュール
 H23年度 : 各施設のプログラム作成
 H24年度 : プログラム実施
 追加プログラム作成(4プログラム)
 H25年度～: 他施設にプログラム実施ノウハウを提供(森林公園、昆虫ふれあい館等)

施策・課題の状況						
施策	生物多様性の恵みに対する理解の浸透	評価	B			
課題	生物多様性の恵みに対する理解の浸透					
指標	グリーンウェイブ参加団体数	単位	団体			
目標値	現状値					
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	30		1	19	30	30
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				2,000	1,600
	決算				1,750	1,600
一般	予算				2,000	1,600
	決算				1,750	1,600
財源	決算				1,750	1,600
事業費累計					1,750	3,350
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		A	県内大学生(37名:金沢大学、金沢星稜大学、石川県立大学、金沢工業大学、北陸学院大)等による環境学習プログラム研究会が、里山里海や生物多様性を学ぶ活動を行った上で、いしかわ動物園及び夕日寺健民自然園において環境学習プログラムを作成し、小学生向けに実施した。その結果、プログラム作成・実施を行った大学生はもとより、プログラムを体験した小学生においても、生物多様性の恵みに対する理解の浸透につながった。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	今後は、研究会に参加する大学生が主体となって、平成23年度・平成24年度に作成したプログラムを子ども向けに実施するほか、他の県有施設においても子ども向けの環境学習プログラムを提供し、生物多様性の恵みの普及啓発を図る。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわグリーンウェイブ2012開催費	事業開始年度	H22	事業終了予定年度	H23	作成者	組 織	環境部里山創成室	
		根拠法令・計画等	ふるさと石川の環境を守り育てる条例 石川県環境総合計画				職・氏名	技師 山崎 美佳	
電話番号	076 - 225 - 1469		内線	4274					

■ 事業の背景
 生物多様性保全の重要性について、未来を担う子ども達に考えてもらう機会として、国際生物多様性の日である5月22日に、世界の各地域において植樹等の活動が行われる。
 本県でも、2009年よりこの生物多様性の日に合わせたイベントや植樹体験等を通じ、子ども達はもとより県民へも広く生物多様性に対する理解を深める機会を提供している。

■ 目的
 平成23年12月の「国際生物多様性の10年」国際キックオフイベントが石川県で開催され、今後も県民の生物多様性への関心や理解を深めるために、平成23年6月に界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を舞台に、国際生物多様性の日にあわせて記念植樹イベントを開催する。また、県内各地の教育関連施設において様々な環境教育イベントを開催し、子どもたちに体験してもらうことで、里山・里海の保全利用に向けた意識の醸成を行う。

■ 内容
 (1) 石川県森林公園での記念植樹、環境教育イベントの実施
 植樹、イベント 日時:平成24年5月19日(土)
 場所:石川県森林公園(津幡町)
 参加者:知事、津幡町長、MISIA、地元の小学生、一般県民
 内容:記念植樹、環境を学ぶ体験型プログラムの開催

(2) 教育関連施設の活動
 環境教育イベント 日時:平成24年5月19日(土)
 無料開放 場所:いしかわ動物園、のとじま水族館、ふれあい昆虫館、海洋ふれあいセンター等
 無料開放及び生物多様性に関する環境教育イベントの実施

(3) 植樹や育樹等、グリーンウェイブの趣旨の則った生物多様性に関する活動実施の呼びかけ
 期間:平成24年5月
 対象:市町、学校、里山づくりISO認証団体その他県内の団体

施策・課題の状況						
施策	生物多様性の恵みに対する理解の浸透				評価	B
課題	生物多様性の恵みに対する理解の浸透					
指標	グリーンウェイブ参加団体数				単位	団体
目標値	現状値					
平成24年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
30	1	19	30	30		
事業費						
(単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
事業費	予算	1,000	1,300	1,000	1,000	1,000
	決算	1,000	1,300	786	800	
一般財源	予算	1,000	1,300	1,000	1,000	1,000
	決算	1,000	1,300	786	800	
事業費累計	1,000	2,300	3,086	3,886	4,886	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「国際生物多様性の日」の直近の週末である5月19日にCOP10名誉大使でアーティストのMISIA氏が来県し、津幡町森林公園において、地元小学生等と一緒に記念植樹を行ったほか、MISIA氏が自ら生物多様性の恵みや、MISIAの森の取り組みを伝えることで、生物多様性の恵みに対する理解が図られた。 また、県内の教育施設、企業、NPO、学校などが植樹活動や生物多様性関連イベントを開催し、理解の浸透に寄与した。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	2010年12月に国連で採択された「生物多様性の10年」計画案によれば、「世界の生物多様性への認識は極めて低い」との観点から今後10年かけて生物多様性の重要性に対する理解を進めることとしており、本県においても生物多様性・里山里海への理解の浸透を図る取り組みは必須である。 そのため、今後も、継続的にグリーンウェイブへの参加の呼びかけや、生物多様性に関する取り組みを行うことで、理解の浸透を図る。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ里山サウンドウェイブ事業費	事業開始年度: H24	事業終了予定年度:	作 組 織: 環境部里山創成室
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名: 専門員 山本 孝平 者 電話番号: 076 - 225 - 1469 内線 4274

事業の背景・目的
 これまで「石川県生物多様性戦略ビジョン」に基づき、県民の生物多様性や里山里海の恵みについての理解を深めるための事業を実施してきた。
 平成23年には「国連生物多様性の10年」がスタートしており、生物多様性を守るための取り組みを拡大し、全県的な取り組みとするため、COP10名誉大使であり、昨年より県森林公園で「MISIAの森」プロジェクトを開始したアーティストのMISIAの協力を得て、生物多様性の保全に向けた普及啓発を推進する。

事業の概要
 5月の1か月間を生物多様性の普及啓発推進月間(仮称)として設定し、以下の取組を実施する。

- ①FMラジオ番組の作成、放送
 MISIAをパーソナリティーとして、生物多様性、里山保全等の理解を促すラジオ番組の作成・放送
 放送先: FM石川 時期: 5月に4回放送
- ②ポスターの作成
 MISIAが登場する生物多様性や里山保全の認知度向上を図るポスターの作成
 配布先 市町、県内の小中学校、図書館、美術館等
- ③ガイドブックの作成
 里山保全や生物多様性を理解し、具体的な行動に繋げるためのガイドブックの作成
 配布先 県内の小学校、里山の関連イベントでの配布等
- ④里山里海保全活動呼びかけ
 いしかわ版里山づくりISO団体、市町、小中高へ里山里海保全活動の実施に向けた呼びかけの強化

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	生物多様性の恵みに対する理解の浸透			評価	B	
課題	生物多様性の恵みに対する理解の浸透					
指標	グリーンウェイブ参加団体数			単位	団体	
目標値	現状値					
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	30		1	19	30	30

事業費					
(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算				2,600
	決算				3,586
一般	予算				2,600
財源	決算				2,586
事業費累計		0	0	0	3,586

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成24年5月の1ヶ月間で、FMラジオの放送(4回)やMISIA氏が登場するいしかわ里山づくりキャンペーンポスターの配布、“里山保全や生物多様性を理解し里山にでかけよう”というメッセージを伝えるためのガイドブックの配布を行い、生物多様性や里山里海といういわば当たり前の事柄について、改めて一般の方々に認識していただくきっかけとなり、非常に有効であった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	普及啓発は、短期的に効果があがるものではなく、長期的視点で取り組む必要があるため、引き続き、生物多様性や里山里海の普及啓発に取り組んでまいりたい。 平成25年度は、引き続きMISIA氏の協力を得て、里山保全、生物多様性の理解と石川の里山の魅力を伝える普及啓発ツールとして新たに映像を作成し、様々な機会を活用して情報発信を行う。